特集 2

進化し続けるセブミツミ
～フィリピン セブミツミでの取り組み～

2017年1月、
ミネベアとミツミ電機の経営統合により
さらに事業を拡大するミネベアミツミグループ。
当社グループの主力生産拠点の一つである、
フィリピンにあるセブミツミでも、
社是「五つの心得」が浸透し実践されています。
地域と共存するCSRの取り組みをご紹介します。

フィリピン、セブ島にあるCEBU MITSUMI, INC.(以下、セブミツミ)は、アクチュエーターやコネクター、電池モジュールなどを生産しており、ミネベアミツミグループのエレクトロニクス・オプトエレクトロニクス分野での成長を支えています。セブミツミは、フィリピンにおける最大拠点で、その雇用数は約20,000名に上ります。1989年にフィリピンのセブ島に設立してから、2019年でちょうど30周年を迎えます。

CSRを通じて組織を強くする

セブミツミでは、経営統合前より地域社会やその一員でもある従業員とともに発展していこうと活動を続けています。統合によるグループのさらなる一体感を高めるため「五つの心得」が記載された携帯カードを全従業員に配布し、常に携帯しています。

「CSRの主な意味合いは、事業の継続と、従業員のロイヤルティにつながることだと考えています」と語るのは、セブミツミの現地責任者である坂主。「特に注力しているテーマは、人材育成や働く環境の整備です。フィリピンは国としてエンジニアが不足しているので、しっかりと育成する必要があります。成長した従業員やオペレーターは当社にとってかけがえのない財産ですから、継続して働いてもらうために働く環境をしっかりと整備すべきです。また、社会貢献活動なども従業員主体で行っています。地域の発展に貢献するというだけでなく、従業員が会社を誇りに思ってもらえるという意味でも効果があります。『五つの心得』にもありますが、従業員が誇りを持てる会社であることが組織の成功につながります。そういった意味合いで、一番重要なステークホルダーは従業員だと考えています」と坂主はCSRの重要性を語ります。

セブミツミ
プレジデント
坂主 克浩

従業員が活躍し、誇れる会社に

グループ執行役員で人事責任者のCaesarは「お客様の期待に応えるには、セブミツミを製造、自動化、システムの中核的拠点にする必要があります。限られた資源の中で、それを実現するには人材の育成が最も重要です」と話します。人材育成でも特に力を入れている分野の一つがリーダーシップ開発と技術力の向上です。セブミツミは約20,000名近くの従業員が所属する組織のため、現地で採用した人材に強いリーダーシップが求められます。そのため、「Leadership Enhancement and Advancement Program」というリーダー育成研修を2012年度より実施しており、100名以上の

セブミツミ
HR Director
Caesar D. Augusto

プログラム卒業生を輩出しています。受講者は数カ月にわたり自身で設定したゴールに向けて取り組みます。これまで高い効果を実感しており、現在リーダー層の多くを現地採用の従業員が担っています。

技術専門職の育成にも力を入れています。エンジニア、スタッフとそれぞれの職種における、階層別の研修プログラムを設け、職種・階層ごとに必要な知識と技術を整理し伝えることで、各人の専門性をより一層高めるようにしています。オペレーターの育成にも力を入れており、「ベスト・オペレーター・プログラム」はその一環として開催。このプログラムは選抜制のもので、組織づくりや文化形成、基礎数学、5S(整理、整頓、清掃、清潔、躾)などを定着させるもので、より大きな視点で工場での活動を考えるものです。2003年度～2018年度に、約1,500名のオペレーターが参加しており、工場全体で意識の底上げになっています。また、大学の先生を会社に招き、働きながら短期大学卒業程度の資格を取ることが可能になる「Graduate Industrial Technicial Program」も提供しています。そのほかにも社内独自の技術認証プログラムやさまざまな社内表彰制度も設けており、高い技術レベルを維持できるよう努めています。

従業員が誇りを持てる会社にするため、働く環境と併せ、従業員が生活する地域の課題解決にも目を向けることが重要です。そのための取り組みの一つが、工場敷地内にある医療施設の無料利用です。工場があるダナオ市には病院が少ないため、医療サービスを受けることが難しい環境にあります。そこで、従業員の日常の健康を守り、会社で働き続けられる環境を整えるために開始したのが本取り組みです。周辺の企業では珍しい取り組みで、従業員の満足度向上にもつながっています。従業員の共同出資で運営されている生活協同組合の取り組みも活発で、工場の前に銀行や薬局、ランドリーなどの施設が従業員に喜ばれています。

従業員の安全・安心への配慮も重要な取り組みです。安全衛生方針の下、工場で働く従業員の安全を確保するために、さまざまな研修を実施しています。また、社会問題である児童労働などの人権問題についても、発生しないよう厳しく取り締まり対応しています。フィリピン当局から労働基準について問題がないことの認証を受けており、すべての従業員が安全・安心に働ける環境を整えています。

このような取り組みにより、従業員の満足度も高く、離職率は非常に低くなっています。

無料医療サービスの様子

従業員の声

セブミツミ
IS Department
Technical Support
Angelyn Salcedo

わたしはより高いポジションを目指してGraduate Industrial Technicial Programに参加しました。働きながら学べる機会を会社が用意してくれることは非常にうれしいです。これからも学習を続けていきたいです。

地域社会とともに発展する

セブミツミの従業員の多くは、周辺地域から採用しています。地域社会とともに発展していくことが重要だと考えており、さまざまな取り組みを実践しています。

その一つが、フィリピン政府からの要請もあり、生態系の保全・台風などによる災害対策を目的とした「マングローブの植林活動」です。周辺地域では、マングローブ林の農業への転用や、炭や薪のための伐採などが問題化しています。地域の方と協力して2011年度にこの活動を開始し、これまでに約50,000本を植林しました。また、そのほかにセブミツミが購入したココナッツやカカオの苗を、従業員とその家族、協力工場に配布し、山への植林活動を通じ防災対策に努めています。

また、地域には教育を十分に受けることのできない子どもが多く、教育の機会を増やしていくことは地域の発展にとって重要であるため、多くの学校に寄付を行っています。読み書きなど基礎教育や職業訓練を行う施設である「The Sister of Mary's School – Girlstown」への奨学支援寄付もその一環です。これまでのセブミツミの取り組みについて、生徒の皆様や校長を務めるシスターのLaresa氏からも感謝の言葉をいただいています。

特集2

進化し続けるセブミツミ
～フィリピン セブミツミでの取り組み～

植林したマングローブ

Santican National High Schoolに寄贈した教室

チャリティーマラソン大会「Run for Education」で走る従業員

「Run for Education」というチャリティーマラソン大会の開催もそうした地域への貢献活動です。従業員の健康増進と地域発展のための寄付集めを目的に2013年から実施しており、1,200名程度が毎年参加しています。これまで200万円以上の寄付が集まっており、周辺地域の学校への設備や教材の支援に使われています。

教育プログラムの中でも特に力を入れているのが「Robotics Laboratory Program」です。近隣のSan Jose Recoletos大学などと協力し、エンジニアの育成を行っています。フィリピンにエンジニアの数が少ないのは、大学にしっかりとした機械設備がないことが一つの要因でした。そこで、セブミツミが大学構内に設備の提供を行いMitsumi Robotics Labを大学と協力して設立。この施設や当社の工場も利用し、当社の従業員が授業を行うことで、学生に実践的な教育を提供しています。卒業制作ではAIを使ったロボットを共同制作するなど非常にレベルの高いエンジニアを育成しています。これまで452名の学生がプログラムに参加しており、その卒業生から当社に入社する方もいます。また、最新機械設備の利用方法を大学の先生に教える活動も行っており、大学全体の教育レベル向上に貢献しています。

San Jose Recoletos大学のOIC-Dean College of EngineeringであるBadana氏からは「セブミツミから機械設備などの支援を受けたことに非常に感謝しています。学生たちも、最新の設備や技術に実際に触れることができ、大きな刺激になっています。当大学とセブミツミとのこの良好な関係を持続させていきたいです」と活動への感謝の言葉をいただいています。

ほかにも海岸の清掃活動や献血、被災地の緊急支援などさまざまな活動を地域社会で実施しています。「地域全体への貢献をこれからも続け、従業員が誇りを持てる会社、地域社会に歓迎される会社を目指します」とCaesarは活動への手ごたえを語ります。

地域の方の声

Santican National High School
School Principal
Mr. Algen Laurente

セブミツミには、教室を寄贈していただきました。大変感謝しています。将来は、サイエンスの授業で、従業員の方を講師として派遣していただくなどさらなる交流ができればうれしいです。

Robotics Laboratory Program参加者の声

セブミツミ
Equipment Engineer
Phillip Michael Castillon

Robotics Laboratory Programは、生徒の学ぶ意欲を支援する良い取り組みです。大学には機械設備そのものがなかったため、ここでの学びは新たな気づきが非常に多かったです。終了後、セブミツミで働き始めましたが、学びは現在の仕事にも生きています。

地域社会の自然環境を守る

地域社会の発展を持続可能なものにするためにも、環境への取り組みは欠かすことができません。特に、沿岸部に隣接するセブミツミには、環境配慮が不可欠です。そのため、「ミネベアミツミグループ環境方針」をもとに、環境への取り組みを推進しています。

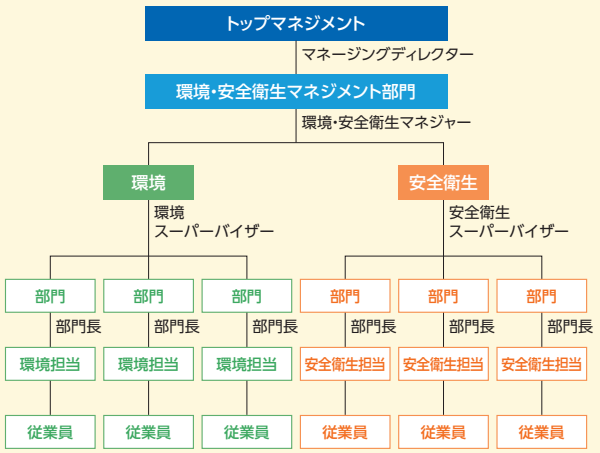
排水処理に関しては、近隣のカモテス海を保全するために特に力を入れています。フィリピンでは、法令で水質を保全するための取り組みが定められており、その遵守に力を入れています。工場排水に関しては、排水処理施設で排水基準まで浄化。また、近隣に影響が出ていないか海での水質のサンプル調査も実施しています。現在、2021年に改定される法

The Sister of Mary's School – Girlstownで職業訓練を行う生徒

寄付をしたScience and Technology Education Centerの先生とセブミツミメンバー

San Jose Recoletos大学の先生とセブミツミメンバー

セブミツミ 環境・安全衛生体制図



制度への対応を行うため、新たな下水処理施設を建設するのに加え、地下水の利用を減らすために雨水利用施設も整備しているところです。

気候変動の影響を受けやすいフィリピンでは、CO_2排出量削減のためのエネルギーの効率化も重要な取り組みの一つです。2018年度も、従業員への意識啓発に加え、遮熱塗装を工場の屋根に施しているほか、LEDライトの活用、空調におけるインバータの利用など施設面での更新も実施。エネルギー消費量・CO_2排出量をそれぞれ5%近く改善してきました。こうした取り組みはコストの削減にもつながっており、経営上重要な取り組みになっています。

廃棄物の削減についても、リデュース、リユース、リサイクルの3Rに加え、リカバー(廃棄物が出てしまう場合でもその影響を最小化する)を加えた「3Rs ＋ 1R」というコンセプトで取り組みを進めています。工場からは段ボール、木材、ビンなど多様な廃棄物が出ますが、ほぼ再利用(リサイクル)が行われており、現在リサイクル率は99%近くにも上ります。また、どうしても廃棄物となってしまうものについては、代替燃料として活用したり、セメントの原材料として利用しています。

こうした取り組みは、お取引先様にもお願いし、サプライチェーン全体で進めています。結果として、お客様より、環境に配慮したパートナーとして認定されるなど、一定の評価をいただいています。

「五つの心得」の実践

新たにグループに加わったセブミツミにとっても、ミネベアミツミグループの社是である「五つの心得」で語られている「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」「地域社会に歓迎されなければならない」といった考え方は、まったく新しい考え方ではありません。これからもグループ全体で考え方を共有し実践することで、社会にとって必要な存在を目指していきます。

生活協同組合併設の教会

セブミツミの排水処理施設

ISO14001の内部監査の様子